

駿河台大学資格課程年報

*Surugadai University
qualification course annual report*

司 書 課 程
学 芸 員 課 程

No.26
(2025)

ごあいさつ

駿河台大学資格課程 主任 金 基弘

『駿河台大学資格課程年報』第26号をお届けいたします。

駿河台大学は1994年3月に文化情報学部が創設され、翌1995年4月に文化情報学部に資格課程（司書課程・学芸員課程）設置以来、本学の資格課程は時代と共に変化する情報社会と文化環境に対応した専門職の人材養成を使命として歩んでまいりました。開設から7年目の2001年に創刊した本年報も、この度継続して第26号を無事に刊行できる運びとなりました。ご協力・ご支援くださった皆様に心より感謝申し上げます。

本学の資格課程は、創設当初から「情報」と「文化」の交差点に位置づけられてきました。司書課程においては、文字情報だけでなく、映像や音響も含めた多様な情報に対する理解や対処ができる、まさに情報の専門職の役割を果たす司書を養成しています。また、学芸員課程においては、博物館資料の展示・教育活動等の情報社会における意義・役割を重視したカリキュラムを設置し、資料情報のデータベース化やインターネット上での公開などの情報処理技術を身につけた新しい学芸員の養成をめざしています。

文化情報学部が2009年度にメディア情報学部へ改組され、その後、駿河台大学資格課程は同学部に設置されるようになりました。2013年度からは、図書館法および博物館法の改正にいち早く対応し、新しいカリキュラムに基づいた実践的な教育を提供し続けています。現在、本学の資格課程にはメディア情報学部のほか、法学部・経済経営学部・スポーツ科学部・心理学部の学生も登録することができ、分野を超えた学際的な学びを深めています。

本年度の教育活動におきましては、学生が対面での活発な議論やグループワークを通じて深く学ぶ機会を確保し、無事に一年間を終えることができました。特に近年のデジタルアーカイブやAI技術の急速な進展は、資格課程教育に大きな変革をもたらしています。本学では、これら社会的な要請に応えるべく、カリキュラムの継続的な検討を行い、「情報アクセシビリティの確保」や「専門職としての倫理」といった、新しい時代に必要な能力を学生に身につけさせています。そして、本学が開設当初から重視してきた学外実習においては、担当教員が実習生とともにそれぞれの実習館を訪問させていただき体制を堅持し、実習生が時代の一步先を行く実践的な経験を積むことを可能にしています。今年度も、本学の実習生を受け入れ、熱心にご指導・ご協力いただいた全国の館園には、この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。

最後になりますが、本年度に全国大学博物館学講座協議会から文化庁に提出された「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」改訂に関する意見書についても、本学の資格課程は深くその動向を注視しています。今後も社会の動向と制度設計の議論を教育に反映させながら、将来の情報・文化社会を支える人材の育成に尽力してまいります。引き続き、皆様の温かいご指導をいただけますようお願い申し上げます。

= 目 次 =

ごあいさつ	金 基弘
I. 司書課程	
駿河台大学 司書課程について	青野 正太・門脇 夏紀 … 6
II. 学芸員課程	
駿河台大学 学芸員課程について	金 基弘 ……………10
《博物館訪問記》	
入間市博物館訪問報告	船場 ひさお ……………13
《博物館実習 体験記録》	
博物館実習を終わって ―課題レポートから―	博物館実習生 ……………14
資 料	
博物館実習協力館および受入人数一覧（過去3年分） 2023年度、2024年度、2025年度	
2025年度資格課程（司書課程・学芸員課程）修了者	
司書課程科目担当教員一覧（2025年度）	
学芸員課程科目担当教員一覧（2025年度）	

I . 司書課程

駿河台大学 司書課程について

メディア情報学部 講師 青野 正太

メディア情報学部 講師 門脇 夏紀

司書課程の特色

駿河台大学では1994年文化情報学部創設の翌年に資格課程として司書課程と学芸員課程を設置し、2024年度までに1,687名の資格取得者を輩出している。2001年度より資格課程は全学に開かれ、他学部の学生も履修できるようになった。

2009年に文化情報学部はメディア情報学部へ改編された。メディア情報学部は、映像・音響、デザイン・アニメ、情報・図書館の3コースで構成されており、様々なメディアの本質を理解し、各種メディアに精通し、多元的メディア社会において即戦力となる人材の育成を目標としている。

司書が専門的な業務に従事する図書館には、公共図書館・学校図書館・大学図書館に加えて、企業等に設置されている専門図書館や情報センターがあり、それぞれの利用者のニーズに応じて様々な情報サービスを提供している。駿河台大学の司書課程では、メディアと情報資源に関する全般的な学びをベースに資格取得を目指すことから、図書館はもちろん、他の分野においても、多様な情報資源を活用し様々な課題解決を支援することができる人材の育成に努めている。実際に卒業生は図書館だけでなく、サービス業や情報・通信業など、幅広い業界で活躍している。そのため、司書科目だけではなく、受講生自身が自分の強みとしたい分野の科目についても、積極的に履修することを勧めている。

司書課程4年間の流れ

司書課程科目は1年次から開講されている。資格取得には、4年次までに「司書課程科目」として定められた科目を計画的に履修し、単位を修得することが求められる。ここでは2024年度以降の入学生を例に、4年間の履修の流れを紹介する。(司書課程科目一覧を参照)

1年次： 入学してすぐに資格課程登録ガイダンスを受講し、期日までに「資格課程受講登録」を申請する。1年次から履修できる「図書館情報学」、「図書館サービス概論」、「図書館情報資源概論」の必修3科目を履修し、単位を修得する。

2年次： 2年次から履修できる「生涯学習概論」、「図書館情報技術論」、「情報サービス論」、「情報資源組織論」、「児童サービス論」の必修5科目を履修し、単位を修得する。選択科目も適宜履修し、単位を修得する。

3・4年次： 3年次から履修できる「図書館制度・経営論」ならびに演習科目である「情報資源組織基礎演習」、「情報サービス基礎演習」の必修3科目を履修し、単位を修得する。また選択科目を「図書館情報資源特論」、「図書館サービス特論」、「図書館基礎特論」、「図書館総合演習」から2科目以上履修し、司書資格取得に必要な単位(必修22単位を含む26単位以上)を満たす(「情報資源組織発展演習」、「情報サービス発展演習」を履修することが望ましい)。

司書課程科目一覧（2024年度以降入学生適用）

区分	図書館法施行規則によって定められている科目	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数	
必修科目	甲群	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2	11科目 22単位 必修
		図書館概論	2	図書館情報学	2	1	
		図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	3・4	
		図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2	
		図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	1	
		情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
		情報サービス演習	2	情報サービス基礎演習	2	3・4	
		図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	1	
		情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	2	
		情報資源組織演習	2	情報資源組織基礎演習	2	3・4	
		児童サービス論	2	児童サービス論	2	2	
選択科目	乙群	図書館情報資源特論	1	情報資源組織発展演習	2	3・4	2科目 4単位 以上
				歴史資料論	2	3・4	
		図書館サービス特論	1	コミュニケーション論	2	2・3	
				情報サービス発展演習	2	3・4	
		図書館基礎特論	1	情報処理概論	2	1	
		図書館総合演習	1	図書館総合演習	2	3・4	

II. 学芸員課程

駿河台大学 学芸員課程について

メディア情報学部 教授 金 基弘

学芸員課程の目標と経過

駿河台大学の学芸員課程は、メディア情報学部設置されている。これまでメディア情報学部では教育目標の一つとして、「情報メディアエイター」の養成を挙げてきた。「情報メディアエイター」とは、人間の文化的営みに関する諸々の資料などに関する専門的知識を持つとともに、これらの資料情報をシステム化し、データベース化するための情報処理技術を身につけ、これらの資料に関する要求に対して適切な情報提供の仲介を行う専門家のことである。文化資料の宝庫とも言える博物館の「情報メディアエイター」とは、その能力をもつ博物館学芸員を意味する。

この目標を達成するため、メディア情報学部の前進である文化情報学部のカリキュラムには、学部設置当初から博物館関係の科目が設けられた。1995年、博物館法施行規則にもとづく学芸員資格取得のための必要科目も開設された。また同年、学芸員課程と司書課程を合わせた「文化情報学部資格課程」が設置され、専門的知識と情報処理技術を身に付けた学芸員の養成が本格的に開始された。

その後、1996年の博物館法施行規則改正に伴い、1997年度から必修科目が開講されている。2001年度には、他学部の学生や学外の科目等履修生も学芸員の資格取得を目指せるように、学則および科目の一部を改正した。資格課程も学部規模から大学規模に拡大され、現在は全学部からの委員で構成される「資格課程委員会」がその運営にあっている。

学芸員課程の履修科目

1995年の開講時には、必修科目として6科目14単位、選択科目では12科目の中から4科目8単位以上、人文・自然科学系科目として10科目の中から3科目6単位以上の履修が資格取得に必要なように設定された。

1996年度の博物館法施行規則の改正にもなっており、必修科目に「生涯学習概論」、「博物館概論」を追加し、必要単位数を8科目18単位とした。さらに、2001年度から、文化情報学部のカリキュラムの一部改正、ならびに資格課程を本学の他学部、科目等履修生に開講したことにもない、一部科目の新設ならびに入れ替えを行って、学芸員資格取得に必要な科目を加え改正した。

主な変更点は、次の通りである。必修科目では「博物館資料論」を設け、選択科目では科目を一部入れ替えるとともに、他学部開放にもない人文・自然科学系科目をA、Bの二つに分け、それぞれⅡ群、Ⅲ群とした。履修方法は、Ⅰ群は、受講者全員が履修することとし、Ⅱ群、Ⅲ群の科目からは2科目4単位以上を自由選択により修得しなければならないことにした。また、「博物館実習」は、年間を通して大学で行う学内実習と博物館などの現場施設で行う現地実習を合せて実施している。

2013年度からは博物館法施行規則改正に伴う新科目の開設を行い、2017年度からは、配当年次、選択科目の見直し等を行い、資格を取得し易くした。2021年度からは全学の教養科目の見直しに伴って人文・自然科学系科目を見直し、別表1のカリキュラムでの学芸員養成を開始している。

履修登録および博物館実習への対応

学芸員課程の履修については、毎年、「資格課程履修ガイド」を発行し、学生に配布して周知を図っている。これに基づく年間スケジュールでは、まず、毎年4月、1年次生および3年次編入生を迎えた段階で、司書課程と合同で「資格課程登録ガイダンス」を行い、その後、学芸員課程の履修を希望する学生は、登録期間内に本学の所定の方法にしたがって教務課窓口で登録することになっている。

博物館実習については、3年次生を対象に、毎年10月下旬に第1回のガイダンスを行い、博物館実習の実施内容や実施上の注意事項を改めて説明している。そのとき、実習館園に関するアンケート調査を行い、その後のガイダンスで担当教員と学生が相談しつつ実習希望館園を絞り、適時学生自身に申し込みをさせている。その後も、申し込みの状況や途中経過などを確かめ、およそ3月～4月末までに学生各自の実習館の内諾をいただけるようにしている。内諾をいただいた実習予定館園に、正式に文書で依頼している。

実習直前には、実習予定学生に対して「実習直前ガイダンス」を行っている。ここでは、博物館実習は、実習実施に当たっての諸注意や期間中の連絡体制等を説明し、実習日誌などを配布して、実習の心構えと準備を整えさせている。博物館実習の授業内では、実習に対する心構え、事前準備などの事前指導を行っている。実習が始まると、担当教員ができるだけ実習期間中に各実習館園に挨拶に伺って、実習状況の確認と実習学生の激励を行い、以後の学生受入についてお願いしている。また、実習終了後には事後指導を行い、学芸員の職務を再確認させ、学芸員になるための一層の努力を促している。なお、資格課程に関わる一連の事務は、メディア情報学部担当の教務課職員に担われている。

学芸員資格課程の今後

1997年度に初めて、本学の学芸員資格課程で86名が学芸員の資格を取得したが、2013年度の法改正後は5～6名の学生が資格を取得している。ここ数年は10名程度と微増傾向にあるが、これまで博物館に就職した者は数名にすぎない。学芸員募集には、募集分野の細分化や高学歴化の傾向、施設運営の指定管理制度導入の影響が見られ、資格を持ちながらそれを活かす職に就けない状況が続いている。これは本学資格課程だけの問題ではなく、学芸員課程を開設している日本全国の大学に共通な問題である。

一方、学芸員資格は国家資格であるため、これを取得したことを重視して採用を行っている企業も、多くはないものの存在する。そこで本学では、博物館実習を一種のインターンシップの場としても捉えている。幸い、実習博物館でも、実習学生の受け入れを社会教育施設の業務の一つであると解して協力してくれるところもあり、今後大学と博物館とのさらなる連携を推進して行く必要がある。

2022年4月に博物館法が改正となり、目的に「文化芸術基本法に基づくこと」、「博物館資料のデジタル・アーカイブ化」が追加された。他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与が努力義務化にもなった。このような変化に対応するためにも、カリキュラム・教授内容を再検討して社会が必要とする学芸員の養成を行っていく必要がある。

別表1 学芸員課程科目（2021年度から2023年度入学生適用）

区分	博物館法施行規則によって定められている科目等	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習論 ※1	2	2	10科目 20単位 必修
	博物館概論	2	博物館概論	2	1	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3 4	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	3 4	
	博物館実習	3	博物館実習Ⅰ 博物館実習Ⅱ	2 2	4 4	
選択科目	資料・情報管理系科目		マルチメディア論	2	1	8単位 以上 選択
			アーカイブズ学	2	3 4	
			音響メディア論	2	2	
			データベース設計論	2	3 4	
			ネットワーク構築論	2	3 4	
			デジタル・アーカイブズ論	2	3 4	
	人文・自然科学系科目		歴史資料論	2	3 4	
			文化人類学 A	2	1 2	
			文化人類学 B	2	1 2	
			歴史学 A	2	1 2	
			歴史学 B	2	1 2	
			環境生物学 A	2	1 2	
			環境生物学 B	2	1 2	
			生命の科学 A	2	1 2	
			生命の科学 B	2	1 2	
			現代科学 A	2	1 2	
			現代科学 B	2	1 2	
			地球科学	2	1 2	
			日本伝統文化論	2	2 3	
	世界遺産論	2	2 3			

※1 スポーツ科学部の学生は「生涯学習論」は3年次からでないと履修できません。

入間市博物館訪問報告

メディア情報学部 教授 船場 ひさお

2025年8月5日（火）、メディア情報学部4年の宮川志穂さんが博物館実習を行っている入間市博物館を訪問した。

入間市博物館はALITという愛称を持つ。これは「Art・Archives」「Library」「Information」「Tea」の頭文字を組み合わせているとのことで、特に狭山茶の主産地である入間市の博物館として、狭山茶をはじめとする日本各地や世界のお茶の製造・喫茶風習、茶道文化などに関するさまざまな情報が提供されている。

宮川さんをはじめとする11名の大学生による実習は、8月2日（土）～11日（月・祝）に行われ、私が訪問した時間帯は、午前中に行われた『夏休みこどもお茶大学 お茶の飲み比べ体験～「抹茶」と「煎茶」～』の片付け中であった。宮川さんは、一緒に実習を行っている学生たちと仲良く談笑しながら、割り当てられた片付けの作業を進めていた。この夏休みこどもお茶大学では、実際にお茶を点てて飲み比べるという体験ができたそうで、実習初日と2日目に準備をし、月曜日の休館日（実習も休み）を挟んで火曜日の午前中に本番という日程であった。入間市では全ての中学生が盆点前ができるように、各学校に道具を揃え、指導者も派遣しているそうで、お茶所ならではの取り組みだと思う。

今回の実習で指導にあってくれている津久井浩一様（主幹・学芸員・社会教育主事）から、本学の博物館実習には長年携わってくださっていることを伺った。博物館実習を経て、入間市役所に入職し、今年から入間市博物館に配属された方もいるとのことで、期待いただいていることを感じた。

とても暑い時期の実習であり、宮川さんも少し夏バテ気味のようであったが、なんとか最後まで頑張ってもらいたいと思う。

宮川さんの実習にあたり、ご指導いただいた入間市博物館の津久井様をはじめとする関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



実習の仲間と共に、夏休みこどもお茶大学の後片付けをする宮川さん



石臼で茶葉を挽く作業

〈総合博物館での実習〉

入間市博物館 ALIT

メディア情報学部メディア情報学科 4年 宮川 志穂

私は8月2日から8月11日までの9日間、埼玉県にある入間市博物館 ALIT にて学芸員実習を行いました。入間市博物館は総合博物館であり、入間や狭山茶の歴史に加えて、自然科学、美術品といった展示が行われています。お茶の展示コーナーでは、狭山茶に限らず世界各国のお茶の歴史についても解説されており、お茶に特化した博物館でもあります。

また ALIT というのは博物館の愛称で、Art・Archives、Library、Information、Tea それぞれの頭文字を組み合わせた言葉です。

実習初日は、午前は館長より入間市博物館についての説明をしていただきました。入間市博物館は、博学連携にも力をいれて活動を行っているというお話をお聞きしました。午後には館内を実際に見てまわりました。自然から民俗、歴史など幅広いジャンルの展示があり、とても見応えがある博物館であると思いました。

2日目は、「夏休みこどもお茶大学」の準備を行いました。今回は、こどもたちと石臼を使用した抹茶作り体験という企画でした。他の実習生の方と協力して、予定の時間よりも早く準備することができました。また博物館の音声ガイドアプリ「ポケット学芸員」の演習についての説明がありました。実習期間内に、各実習生が紹介したい展示についての音声ガイドを作成するというものです。この日は解説したい展示を決めるところまで取り組みました。

3日目は、前日に準備を行なった「夏休みこどもお茶大学」の運営を行いました。私は、こどもたちのサポートと石臼で茶葉を挽く作業を主に担当しました。茶臼を使用した作業はとても体力が必要なものに対して、出来上がる茶葉の量はとても少量でした。昔の人々にとってなぜお茶が高級品であったかが、体験することで深く理解できました。

4日目は、1日かけて収蔵庫内の資料整理を全員で行いました。収蔵庫内には、貴重な資料や文書がたくさんあるため、少し緊張感を持ちつつ取り組みました。また温湿度が一定に保たれているため、夏の時期に行うのはやや大変でした。ですが、実習生全員で協力しながら取り組んだため、予定よりも早い時間で終わることができました。

5日目は、午前は博物館近くにある施設へ行き、夏休みの子ども向け科学教室のサポートを行いました。今回は、以前行ったこどもお茶大学と比較して、子供たちと触れ合う機会が多く、一緒に楽しく参加することができました。午後は、少し前に燻蒸した資料の搬出のお手伝いを実習生全員で行いました。燻蒸された直後の資料を見るのは初めてだったので、とても貴重な体験をさせていただきました。たくさん資料がありましたが、他の実習生と協力しながら運ぶことができました。

6日目は、午前に入間市駅近くにある、旧石川組製糸西洋館の見学を行いました。こちらの建物は、映画やドラマなどのロケ地にも使われており、趣を感じる建築であると思いました。学芸員の方から、建物をできるだけ当時のまま残していきたいというお話をお聞きし、館内の資料だけでなく、外部の建物の維持や管理をすることも、学芸員の仕事の一部であることを学びました。

7日目は、2回目のこどもお茶大学の運営に携わりました。今回は、ホットプレートとレンジを使用して、手作り茶葉を作るという企画でした。また茶摘み体験も行い、インストラクターの方から上手な茶葉の摘み方を教えていただきました。体験を通して、手軽にお茶作りができることがわかる貴重なイベントであると感じました。

8日目は、実習中の演習課題「ポケット学芸員」の制作を行いました。私は、太平洋戦争中に小学校で歌われていた歌の解説文を作ることにしました。制作に取り組んで気づいたことは、戦争に向かった男性以外に、残った女性や子供にも戦争は深く生活に刻まれていたということです。調べてみて、平和な生活の重要性や戦争の悲惨さがとてもよく理解できました。

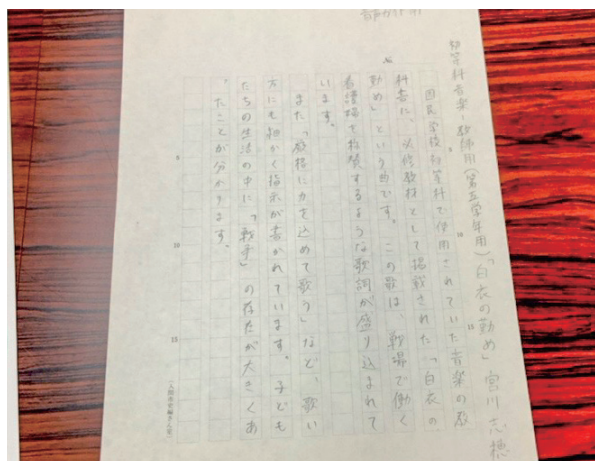
最終日は、「ポケット学芸員」の仕上げに取り組みました。学芸員の方に解説文を添削していただき、聞く方によりわかりやすい文章にするポイントを教えていただきました。完成した文章は、他の実習生と共有しました。各々読み方や取り上げたテーマが異なっており、伝えたいテーマや思いを感じました。

実習を通して、学芸員の方に必要な力を知ることができました。特に印象に残っているのが、体力面です。私たち実習生よりも出勤は早く、退勤は遅い職員の方々に加えて、資料整理では重い資料をたくさん運ぶ必要があることがわかりました。また展示を見たり様々な企画の運営に参加させていただいたことで、地域の人々との繋がりを大切にしていることがわかりました。展示では、学芸員自身を感じて伝えたいテーマを決め資料選びをし、見てくれた方に何を思い考えてもらいたいかで予想・構築する必要を感じました。また子供向け企画を通して、地元の良さや地域について学んでもらう機会を楽しみながら行えるような内容に工夫する凄さを知りました。

お忙しい中、実習を受け入れてくださった入間市博物館の皆様へ、お礼申し上げます。



旧石川組製糸西洋館内大広間



「ポケット学芸員」作成した解説文

私は飯能市立博物館にて8月5日から13日までの期間（6日と8日を除く）計7日間実習をさせて頂いた。飯能市立博物館は飯能の「里」、「町」、「山」の歴史展示と天覧山について展示されている「身近な自然コーナー」の常設展示がある。また、西川材という飯能市の林業について紹介するコーナーも設置されている。

実習1日目は午前中に館長の講話を受け、飯能市立博物館がどういう博物館なのかについて詳しく知ることができた。午後には2日目の子供自然教室の場所の下見や道の確認、その他注意点について打ち合わせを行った。

2日目の午前中に子供自然教室の補助を行った。内容は列が途切れないように声掛けやとても暑いなかでの実施だったこともあり、体調を崩している参加者がいないか確認していた。かなり参加していた人数が多かったため全体を見てサポートをすることが難しく感じた。

午後に自然教室の反省会を行った。子供自然教室の良かった点や改善すべき点について話し合いや参加していた子供たちの感想も知ることができた。博物館でのイベント実施をするにあたっての大変なところや問題となる部分、またイベントの大事さについて理解でき、とても勉強になった。

3日目は8月の企画展だった「子どもたちの戦争」の批評をした。グループでディスカッションをし、企画展のいいところや問題ではないかと思う意見を出し合った。展示を批評するのは初めてだったこともあり、どこが良くてどこが悪いかといった部分を探すということに苦戦したが、自身が思いもよらなかった意見などを聞くことができ、良い刺激を受けられた。

4日目は午前中に教育センターから学校の先生がいらっしやり、学校の授業でどのように博物館を利用すればよいかという館長の講義を見学させていただいた。午後には館長の案内のもと、施設見学を行った。博物館の創設された経緯や展示室の特徴、バックヤードの説明をして頂いた。知識として知っている設備やそうでない部分について知れ、とても勉強になった。

5日目は資料整理実習をさせて頂いた。内容は古文書を弱アルカリ性の紙に入れ、その文書のタイトル、内容、状態などの読み取れることを記録するという実習だった。文書にはきれいな状態のものからかなり年季の入ったものまで様々なものがあり、特に資料の状態が悪いものについては扱うことにとっても緊張した。

6日目は午前中に引き札の翻刻、説明を行った。引き札とは江戸～大正時代にかけてお店のチラシのように配られたものである。その引き札の内容をペアでなんとというお店がどういう引き札を作っていたかを話し合った。文章や絵の中に様々な情報を読み取ることができ、お店によって手法が変化していたのがとても興味深かった。

午後には子ども歴史教室「泥めんこをつくって、遊んでみよう！」を実際に体験させて頂いた。めんこの成り立ちやどんな種類の泥めんこがあるのかについて聞き、そのあとで実際にいくつか泥めんこを作り、最後に泥めんこで遊ぶという内容だった。

最終日の午前には広報活動実習があった。飯能市立博物館のSNSやホームページを見てどういう点を直すべきかについて意見を出し合った。

午後は実習のアンケートに基づいて実習の振り返りを行い、館長からフィードバックを頂いた。学芸員の仕事についてやこれから博物館に必要なことなどのお話を聞くことができ、知見を広げられました。

この7日間の飯能市立博物館での実習を通して学芸員という職業の役割についてより深く知ることができました。この貴重な経験を活かして学習に励んでいきたいです。



子ども自然教室の様子



施設案内の様子

飯能市立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 王子田 渉

私は今回の博物館実習で印象に残ったことが五つあります。

一つ目は、夏休み子ども自然教室「田んぼと川の生きものしらべ」です。

天覧山の谷津田という田んぼと飯能河原で水生生物を採集するという内容でした。とても暑かったですが、万全に熱中症対策をして臨んだので全員が無事に終わられました。一人だけ、参加者のお子さんが最後に熱中症になりかけましたが、すぐに適切な対処がされ、回復したので良かったです。あとは、田んぼの水が干上がってなければ完璧でしたが、そう全てがうまくはいきませんでした。この日に学んだことは何事も万全に対策をすれば最悪の事態は防げるということです。また、小学生と会話するようになったとき、どんなことを話せばいいかわかりませんでした。私には、小学生と話せる話題がなかったので、沈黙が流れてしまいました。普段から、子供と接していれば話せたと思います。こればかりは、インターネットで調べてもわかりません。それから、全ての子供たちが親御さんと話していたのを見て、どうすれば話してくれるようになるのか考えました。これは、他の実習生も考えたことだと思います。ですが、荷物を運ぶことだけは率先してやりました。自分ができるだけ多くの物を持つとしたので、他の実習生に持ってもらった物もあったものの、少しは役に立てたのかなと思います。確かに、私は水辺生物に精通していないので、あの場で話せることはなかったと思います。ですが、他にもできることはあったはずなので、言われなくても行動できるようになりました。

二つ目は資料整理です。

私は、正直言うと最初は興味を持つことができず、あまり乗り気ではありませんでした。ですが、いざやってみると面白かったです。生まれて初めて見たものばかりだったので、手を動かさず、しばらく

眺めてしまっていました。確かにどれも埃まみれではありましたが、私は汚いというよりもどんなことが書いてあるか考えたことが印象に残っています。実際に整理の作業に入ると、他の実習生が声をかけてくれたので、私は言われた番号をふるだけで済み、楽に作業ができました。おかげで、資料整理自体は大変だったというイメージはなく、楽しかったという印象が強く残っています。

三つ目は、施設見学と展示解説です。

バックヤードでは、社会の授業で使う昔の道具の資料がたくさんあることが分かりました。

企画展示だけでなく、常設展示の解説も細かくされたため、あまり目立たないような所にも工夫があることがよく分かりました。また、飯能市立博物館の存在意義の話では地域と飯能市立博物館の関わり方について話をされていたのが興味深かったです。飯能市立博物館はそれ単体での役割というより、市の規模の大きい計画のようなものの一部として存在しているような話を聞いて驚きました。それから、博物館運営の課題として、各博物館はプライドを持っているので、交流はあっても自分の館の悪い所は言わないという話も聞いて驚きました。

四つ目は、引き札の実習です。

私は資料整理でもそうでしたが、資料に何が書いてあるのか知りたかったので、この実習があって嬉しかったです。江戸時代の正月文化は現代より町の商店の影響が大きかったことに驚きました。現代は正月というものは年の始めぐらいにしか思われていませんが、新年を迎えられて嬉しいという気持ちが、当時の資料から感じられて、当時にタイムスリップしたらとても楽しいと思いました。

五つ目は、博学連携についてです。

飯能市立博物館は博学連携に力を入れていて、小学校の先生にも自分の館についてどんな活動をしているのかを館長が話すと言う機会がありました。こんなに博学連携に積極的な館も少ないだろうと思いました。先生たちも、積極的に質問していて、博物館を積極的に授業に取り入れたいと言っていて、すごいと思いました。また、先生たちにも私たちと同じように企画展示の解説とバックヤードツアーが行われました。話を聞いてもらうだけでなく、実際に話を聞いてほしいという熱意が感じられました。館が一体となって博学連携を行うことで、博物館の熱意を知ってもらえ、博学連携の機会を増やすことにつながるのだと思いました。

最後になりますが、飯能市立博物館の職員の方々、普段の業務の中、実習をするための準備など大変だったと思います。

私は今回の実習で学んだことがたくさんあるので、感謝しても仕切れません。

本当にありがとうございました。またお会いする日を楽しみにしております。



引き札の実習



採集した水生生物

私は2025年8月5日（火）から13日（水）まで休日2日を除く7日間飯能市立博物館にて博物館実習を行いました。飯能市立博物館は飯能市の自然や歴史に関する資料を多数取り扱っており、常設展示室と特別展示室の2つの展示ホールから構成されているのが特徴です。また、飯能河原を一望できるバルコニーや飯能の歴史や文化に関する図書が配架されている図書館も開放されており、連日様々な方が来館されています。

1日目は挨拶と尾崎館長の講話を聞いて、午後からは翌日の夏休み子供自然教室の準備と下見を行いました。今回の実習では他の大学の実習生も3人参加しており、挨拶の際にはハキハキと話すことを心がけました。その後飯能市立博物館の現状と運営方針についての講話を聞きました。夏休み子供自然教室の準備では翌日の流れと自分が何を担当するのかの確認と、生き物を捕まえるためのペットボトルの容器の作成を行いました。下見では実際に自然教室を行う天覧山と飯能河原に赴き、当日の流れを確認しました。2日目は夏休み子供自然教室の運営補助を行いました。朝は普段より15分早く来て、受付の仕事と最終確認をしました。天覧山では前日の反省を活かして、熱中症対策を第一に取り組みました。水分を前日より多めに持参し、子供達にも水分を多く取ってもらいました。天覧山では純絶滅危惧種に指定されているアカハライモリなど多くの生き物を実際に見れたので、子供達もとても楽しそうでした。飯能河原での活動は天覧山よりも涼しかったので子供達も元気に生き物を探していました。私たちは安全のためのロープを張ったり、バケツの運搬作業を行うなど役割分担をしっかりとこなすことができました。午後は反省会を行い、実習生と学芸員の方々と意見交換を行いました。全体での反省点としては、役割分担と連携があまりできていなかった点が挙げられました。意見交換では、自分が担当者だったらやってみたいプログラムについて共有を行いました。私は高学年を対象とした飯能河原の石の調査をする案を挙げました。他の実習生の意見では捕まえた生き物のデッサンをする会がとても面白そうだと思います。3日目は企画展の展示解説と展示批評を行いました。実習時、飯能市立博物館では企画展「戦後80年こどもたちの戦争」を開催しており、当時の資料を見ながら展示解説を聞くことによって戦時中の飯能市について詳しく学ぶことができました。その後、企画展の展示批評についてグループディスカッションを行いました。話し合いでは来館者と学芸員の両方の目線から良かった点と改善点を出せるように努めました。その後、各班で出た意見を共有しました。良かった点としては子供の目線に合わせた展示設計ができていない点や、照明の明るさについてなどが挙げられていました。改善点は写真資料におけるキャプションの位置やハンズオンや映像を使った展示がないといった意見が挙げられていました。4日目は施設見学と批評についての実習を行いました。博物館の良いところだけではなく改善していかなければいけないところについても聞いたのが学びになりました。特別展示室は常設展示室と比べて天井が低く、密閉できない（防火できない）ため展示できる資料に限られるなど前日の展示批評では気が付かなかった点がとても勉強になりました。また、バックヤードでは普段は入ることができない収蔵庫の様子を見学することもできました。収蔵庫も一般収蔵庫と特別収蔵庫の2つの部屋に分けら

れており、棚や壁などの構造も異なり、保存する資料にあった場所に正しく保管できる工夫がされていました。5日目は資料整理実習を行いました。実際にバックヤードから文書を運搬し、封筒に番号を振る作業を行いました。番号は一つでもずれると他の班にも迷惑がかかるため声がけをしながらの作業を心がけました。次に文書の情報を記入する作業を行いました。この作業は資料カードと封筒に文書の題名や著者などの情報を記入する重要な作業であり、江戸時代や明治時代のとても古い文書を扱ったので慎重に作業を取り組みました。この実習では実際に昔の文書を扱い、整理作業を行うというとても貴重な経験をしました。また、声がけを積極的に行うなど、これまで以上に皆と協力して作業に取り組むことができました。6日目は引き札の翻刻、説明、キャプション作成の実習を行いました。引き札とは江戸時代から作られていた商品の宣伝をするチラシのような紙です。この引き札に書かれている絵や文字から何の商品を宣伝しているのかを考察し、発表を行いました。この発表では引き札にどのようなことが書かれているのかを初めて見る人にも伝わるように気をつけました。最終日は広報活動実習と全体のまとめを行いました。広報活動実習では博物館のSNS利用についての意見交換を行いました。改善案では更新頻度を増やすべきや、博物館入口に展示されている今月の一品をSNSにも載せるべきなどの意見が挙げられていました。まとめでは尾崎館長の講話とアンケートを基に全体で振り返りを行いました。今回の実習では来館者目線からはわからない博物館展示の裏側について知ることができ、とても勉強になりました。最後にお忙しい中、実習を受け入れてくださった職員の皆様に感謝申し上げます。



企画展の展示解説と展示批評の様子



飯能河原でのロープ張りの様子

飯能市立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 中尾 一馬

私は埼玉県飯能市に位置する飯能市立博物館にて、8月5日～13日（うち2日間は休日）までの7日間、博物館実習を行った。今回9人の実習生がおり、担当学芸員の方は驚いていた。

飯能市立博物館では、常設展示として「歴史展示室」を設けている。

歴史展示室では、「里」「町」「山」「飯能今昔」の4つのゾーンがあり、当時の大通りを再現した模型や国指定重要文化財である「木造軍荼利明王立像」のレプリカなど様々な展示があり、それぞれの歴史

や文化が紹介されている。

私が実習をしていた期間には特別展示『飯能市平和都市宣言推進事業「戦後80年 こどもたちの戦争」展』が行われていた。防空頭巾や木製の銃剣、疎開児童が描いた絵など戦争にどれだけの子どもが関係していたのか当時の写真や展示品で観ることができる。

実習1日目はオリエンテーションと館長による「当館の現状と運営方針、ミッションについて」をご講和いただいた。午後は2日目に行く「夏休み子ども自然教室の準備」を行った。

実習2日目、午前は夏休み子ども自然教室を行い、午後は片付けや反省会を行った。当日は猛暑の中で、参加者の子どもたちの体調管理はもちろん、自分たちの体調管理も大変であった。子どもたちが天覧山や飯能河原で生き物を採取する際に危ない場所に近寄らないように細心の注意を払って声かけを行った。講師の先生が採ってきた生き物について解説する場面があり、子供たちや保護者の皆様が興味津々で聞いている姿は運営補助をしてよかったなと思いました。

午後には片付けや反省会を行った。子どもたちに貸し出した鉛筆やシート、床の清掃などを行った。反省会では、年々気温が上昇し、企画が困難になってしまうことに対しての解決策や年齢制限を設けることで解説の難易度調整ができる一方で、兄弟での参加が難しくなるといったデメリットもあるといった問題も挙がった。この1日でイベント運営の大変さを学ぶことが出来た。

実習3日目は午前は企画展の展示解説を行い、午後は企画展の批評を行った。

午前の企画展の展示解説では、担当学芸員の方に企画展の展示解説をしてもらい、気になったところや参考になる点をメモしながら見学を行った。

午後は2つのグループに分かれ、メモを参考にグループでの批評を行い、最終的に発表を行った。ケースの位置やフロアマップの追加、展示ケースの高さなどを議論し、その意見に対して担当学芸員の方からフィードバックを貰うことができた。

実習4日目、午前は教育センターの方々と一緒に館長から「博学連携」についてご講和いただいた。午後は施設見学を行った。

午後の施設見学では、館長と館内やバックヤードを見学し、3日目同様気になったところや参考になる点をメモしながら見学を行った。

受付が少し重く話しかけにくい点や特別展示室の使い勝手の悪さ、バックヤード問題など実際に見学をして、解説をしてもらうことで自分では気が付くことのできない点も見つけることが出来た。

実習5日目、文書の資料整理実習を行った。資料整理、目録作成を3つのグループに分かれて行った。資料の多さには驚いたが、自分たちのグループは1人ずつ役割分担を行い、上手く資料を整理することが出来た。当時の人が残した資料に触れることが出来る貴重な体験だったので多くのことを学ぶことが出来た。目録作成の際には整理した資料から情報を読み取り、カードに記載していく作業だったが、資料から必要な情報を読み取る能力がないため苦戦を強いられた。

実習6日目、午前は引き札の翻刻、説明、キャプション作成実習を行い、午後は「夏休み子ども歴史教室」についての紹介や体験を行った。

午前の引き札の翻刻は、この引き札には何が描かれているのか、どこのお店から出されているのかなどの情報を読み取り、書き出す作業である。キャプション作成では、実際に展示室に展示する用の台座や用紙などで引き札の説明を行った。

午後の「夏休み子ども歴史教室」について説明を受け、実際に体験を行った。今年は泥めんこについての企画で、発掘された場所やいつ頃使われたものなのか、めんこについての豆知識などを担当学芸員

の方に説明していただいた。そのあとに実際に粘土で泥めんこの作成を行った。実際に泥めんこの作成を行うことで、課題や良かった点などがよく分かった。子どもが作るには少し力が必要であることや子どもによって作業スピードに違いがあり、作れる泥めんこに差が出てしまうなどの課題点が挙がった。

実習最終日、午前担当学芸員の方のよる広報活動実習を行い、午後は館長の講和、実習のまとめを行った。

午前の広報活動実習では、実際のホームページやXを閲覧し、改善できるところを発表しあい、出た意見を参考に実際にXに投稿するならどんなものにするかといった実習を行った。個人のアカウントでの活動ではなく、教育機関での活動という視点がかかなり難しかった。

午後は館長から飯能市立博物館のあり方や今後の博物館活動についての話をしていただいた。

この7日間は、他の学校の生徒と交流することが出来たり、貴重な体験ができたり、多くのことを学べた。

お忙しい中、実習を受け入れてくださった職員の方々に感謝申し上げます。



特別展示の解説を受けている様子



資料整理実習の様子

飯能市立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 吉川 朔哉

私たちは8月5日から11日と12日を除く一週間、埼玉県飯能市にある飯能市立博物館で実習の機会をいただき、学芸員の業務や資料の扱いについて多くの学びを得ることができた。これまで大学の授業や文献を通じて博物館学の理論を学んできたが、実際の現場に身を置くことで、机上の知識では見えてこなかった課題や工夫を体感できたことは大きな収穫であったと感じ、その所感を本レポートにまとめる。

飯能市立博物館は1990年に開館した飯能市立郷土資料館を前身に、2018年から飯能河原・天覧山周辺のビジターセンター的機能を追加し、名称を新たにリニューアルオープンしたものである。

実習初日、午前中に職員の方々との顔合わせと簡単な館内の案内をしていただいた。飯能市立博物館には何度か来たことがあったが、展示についてだけではなく広報に関する話なども交えて説明してもら

い、ただ観る以上のことが知れた。午前の最後には運営方針と現状についての講話をしていただき、飯能市立博物館がミッションとして掲げる三つの価値、個人的価値、学術的価値、社会的価値について知った。近年、数々の社会問題が浮き上がる中、それらに対処する行政機関として博物館にも今まで以上の社会的価値が求められているのだ。午後からは二日目に行われる夏休みこども自然教室の準備を行った。天覧山と飯能河原の二か所の水場で生き物を採集し比べてみるという内容だったので、事前準備のため下見を行ったのだ。下見では連日の猛暑の影響で水量が著しく減っていたため、当日に生き物を採集できるか不安が残った。

二日目、夏休みこども自然教室。天気は快晴で気温が高く熱中症注意報こそ出ていなかったが、十分な注意が必要な暑さだった。また、参加した方々は20名近くにもなり、実習生が9人いても隅々まで見張るのは難しかった。しかし、昨日の不安なども含めて懸念する点はいくつもあったものの自然教室は無事に終えることができた。子供たちは元気かつ利口で、問題行動を起こすこともなく水分もしっかりとれていた。不安だった採集でも次々と生き物を見つけてくれ、無事に終えられたのは彼らの協力によるものだったと痛感した。午後は片付けと反省を行った。無事に終えられたとはいえ反省点がないわけではなく、私自身では考えつかなかった問題点もいくつかあった。

三日目は一日を通して企画展示の解説と批評を行った。当時、行われていたこどもたちの戦争をテーマにした企画展について実際に展示を担当した方から説明を受けながら案内してもらい、その後二つの班に分かれてどこがよかったか、どこか改善できるか話し合った。展示ケースの大きさや不揃いな点などを改善点として挙げたところ展示ケースに余裕がないことを知った。

四日目、午前中に学校職員の方々が博物館見学に訪れ、その会場の設営などを行った。私達も学校職員の方々の見学に参加させてもらい、大学で習った以上に博学連携について知ることができた。博学連携により小中学生が生涯学習に触れる機会を作ることは地域を守り、博物館などの生涯学習施設が役目を全うするために取り組まなければいけない課題であると博物館の具体的な考えや想いを知ることができた。

五日目には一日を通した資料整理実習が行われた。飯能市の資産税課から送られてきた何百点の資料を班ごとに分かれて整理したが、番号を振る段階で数え間違いが多発し、資料がまともに読めずカードを作るのにも難航した。以前、飯能市立博物館館長から聞いた博物館は会計年度職員の方々に支えられているということの意味を実感した。

六日目、午前中は引き札の翻刻と説明、キャプションづくりの実習を行った。資料を観察し自分なりに考察するというのはとても面白い体験だった。知らないことを調べて知るといのは生涯学習の本分であり、その気持ちを学芸員という立場で感じられることは素晴らしいことだろう。午後には以前に行ったという夏休みこども歴史教室について批評を行った、泥めんこという昔のおもちゃを作り、実際に遊んでみるという企画だったが、クイズ形式の解説やゲーム簡単かつ熱中できる点が素晴らしかった。

実習最終日となった七日目では、午前中に広報活動実習が行われた。博物館が世代を超えて地域に親しまれるためにも広報の役割は重要だ。昨今のテレビや新聞から離れていく風潮の中、SNSを活用するのは当然かもしれないが、市立博物館ゆえのしがらみや自由度の低さなどを知ることができた。午後には一週間を通しての講話を館長からしていただいた。これからの世代にどうやって博物館を利用してもらおうかなど考えた。

七日間の実習を終えて、長いようで短い時間だったと感じた。大学で学んだ博物館学は実際、単なる知識でしかなく、その現場で声を聴くことで初めて感じられるものがあった。私たちのためにお時間を

いただいた博物館の皆様に改めて感謝します。



夏休みこども教室の様子



企画展の批評を話しあう様子

飯能市立博物館

心理学部心理学科 4年 田中 拓真

8月5日から13日までの7日間に飯能市立博物館で館務実習を行った。

実習1日目の午前はオリエンテーションと「当館の運営方針と現状」をご講話頂いた。午後には8月6日に開催される屋外講座の下準備を行った。

オリエンテーションで自己紹介と施設見学を行った。自己紹介では計9名の館員に挨拶へ伺った。図書のリファレンスについての電話応対をしていたり2名ほど持ち場を離れられないため後ほど個別に伺ったりと、ご多忙なことが一目瞭然であった。また、館長が今年度の実習生の多さに「凄えな」と漏らしていたことが印象的であった。次に概ねの施設見学をした。常設展には「災害の記憶」というコーナーがあり、これが最も調査研究の成果を社会還元できると伺った。「災害の記憶」を後世に伝えることで防災意識の向上を期待することは、ダーク・ツーリズムに通じると思った。

講話では評価についての話や飯能市が取り組む観光計画などの経営論に近いことを学んだ。行政は都市回廊空間整備事業と銘打って Metsa や天覧山周辺や宮沢湖周辺を周回できる観光資源にしたいそうである。そこで行政機関として天覧山周辺の解説や展示をするビジターセンターの役割を果たしたいが、自然史系など専門の学芸員がない飯能市立博物館は自然の収集・整理・保存・保存調査研究ができなため展示（情報提供・情報発信）のみのビジターセンター的機能を果たしているという話が興味深かった。

2日目の午前は自然ワークショップ「田んぼと川の生きものしらべ」の運営補助を行った。午後は午前の後片付けと反省会を行った。

飯能市立博物館では夏休みキッズプロジェクトという6つの催事を開いており、中でも毎年開かれる「夏休み子ども自然教室」と「夏休み子ども歴史教室」は2本柱である。

今年の自然ワークショップでは天覧山周辺の谷津田と飯能河原で水生生物を採取し、博物館の学習研修室で観察と解説をした。目的は田んぼと河原の生物を比較して学ぶことであった。解説は「エコツーリズム市民ガイドの会」の方を講師として外部委託していた。この方に毎年委託しているらしく、資源(ヒト)と付き合いの大切さを学んだ。1日目の午後は自然ワークショップの下調べをした。連日の酷暑により谷津田は干上がっており生物が少なかったため、一部の計画を見直した。

2日目の運営補助は参加者の見守りなどを行った。午後の反省会では、教育普及の大変さなどを学んだ。

3日目の午前は企画展の展示見学と展示批評を行った。開催されていた企画展は「戦後80年 こどもたちの戦争」であった。まず展示解説を拝聴し、その後2班で話し合って展示批評をした。

4日目の午前は新任教員の「教育センター見学」があったため、会場準備と教育普及の見学をした。午後は施設見学と指導職員への質疑応答をした。

教育センター見学は博物館が生涯学習施設の一つだからだろう。施設見学では玄関や受付などで配置や照明などが利用しやすいようにデザインされているというハコモノの工夫や、建設時の首長の意向で博物館を小さく設計されていたり現在は麦作などの畑として活用している手狭なスペースに図書館を建てようとしていたりといった土地の事情など博物館建築学の話や、来館者数を数えたり警備したりするためにセンサなど機械を用いているという博物館経営論の話などを学んだ。質疑応答では調査・研究の成果を展示や解説や情報発信などで還元する方法を考えていることや、学芸員資格は博物館以外でも発掘会社や展示業者や文化財管理など様々な職業で活かせることや、正規職員と非正規職員の権限・職務範囲・責任の違いなどを学んだ。

5日目は資料整理実習として資産税課から寄託された文書の整理を行った。午前は3班に別れて資料の封筒詰めを行った。最初は数え間違えたり複数資料を封入したり封筒に記す番号が重複したりして上手いかなかったが、そこで役割分担と報連相の重要性と仲間同士で声を掛け合うといった協力が有効であることを学んだ。午後は目録作成をした。文書(archive)を初めてしっかり読んだが、保存状態が悪くなくて年代や著者や名称などのメタデータを特定できないことがあることを知り、保存の必要性を知った。

6日目の午前は調査・研究と展示として引き札の翻刻等をした。午後は夏休み子ども歴史教室の「泥めんこをつくって、遊んでみよう!」というワークショップを体験した。引き札とは江戸時代から大正時代のポスチラである。我々は2人1組で資料に書いている内容を読み取ったり描かれている絵のメッセージを考えたりした。そしてキャプションを作成して撮影した。翻刻には幅広い分野の知識が必要であり、高い情報行動と日頃からアンテナを張ってヒントになりそうな情報収集をする必要性を学んだ。

最終日の午前は博物館情報・メディア論として広報活動実習をした。午後はアンケート講評による実習の総括をした。広報活動実習はきつとすの公式サイトとTwitterを参照して情報発信で気を付けるべきことと改善点を議論した。ミームを使っても良いか使ってはならないかで意見が割れて興味深かった。

実習生がきつとすを紹介する Twitter 投稿を考えた。我々はいつでもリファレンスを受け付けていることを軸に考えた。

実習を通して、限られた資源（ヒト・モノ・バ）を分配する比率からきつとすは第二世代の研究偏重ではなく活用——特に教育普及——に力を入れていることに気が付いた。学芸員課程で勉強した座学の内容を応用できる場面が多く、習ったことが現場で実用性があることを実感できて良かった。

最後にご多忙の中で実習を受け入れてくださった館員の方々に感謝を申し上げる。



自然ワークショップで深い所に縄を張る様子
(手前の赤い服の方は利用者)



引札のキャプションを作成する様子

青梅市郷土博物館

経済経営学部経済経営学科 4年

私は8月5日から8月9日までの5日間、東京都青梅市にある青梅市郷土博物館で実習をしました。実習生は私と他大学の学生1人の合わせて2人でした。

青梅市郷土博物館は、1974(昭和49)年5月11日に青梅市駒木町の釜の淵公園内に開館されました。昨年に開館50年を迎え、昨年の12月21日から今年の3月30日まで特別展として「青梅市郷土博物館開館50年のあゆみ」が開催されていました。しかしながら、館内設備の老朽化のため4月1日から休館していますが、今回の実習を受けることができました。

初日の午前中はオリエンテーションと自己紹介をし、その後に市内にある文化財を巡りました。午後からは資料の取り扱いについてと梱包材の修復について学びました。オリエンテーションでは博物館について仕事内容や概要、法律などの基本について学びました。文化財巡りでは、各住宅それぞれ住んでいた人の身分が違っており各住宅の違いや特徴について学びました。旧稲葉家住宅では珍しい3階建ての倉を見せてもらいました。午後の資料の取り扱いでは、銅製鰐口の梱包の仕方を学びました。梱包をする際には何よりも資料の状態を確認することが重要でした。

2日目は午前中は青梅市について学びました。内容としては考古学についてがメインで青梅市内の遺跡の分布や遺跡が作られた時期などを学びました。その後は土器の洗浄と註記をしました。土器や石の

洗浄ではたわしを使って泥を落としました。今回洗浄した石の中には大きく丸い石がありました。その石は中世から近現代の建物の基礎の石でした。小さい土器の破片などは断面から洗うと破損しにくいと学びました。今回註記した土器は縄文中期のものでした。土器片の下側に白色のポスカ(今回は白の絵の具と筆)のできるだけ小さく出土した遺跡の番号を書き込みました。小さく見やすく書き込むために筆をできるだけ立てることが重要でした。上下の判断は破片を自分で回してみてもその破片が土器のどのあたりなのかを考えて書き込むため、とても頭を使いました。

3日目は午前中は民具類の整理、午後は古文書の整理を行いました。民具類の整理をした際には、机と平均的なサイズの約8倍のサイズの銭箱運びました。その後収蔵票の作成を行いました。収蔵票には整理番号、使用地、収蔵年月日、寄贈者、備考を記入しました。ほかにも分類、製作地、使用者、採集地、採集者を記入する欄もありました。収蔵台帳は開館当時より使用しており収蔵順に記載されています。また、パソコンにデジタルデータとして登録した後も台帳は残しています。資料を撮影する際は、あらかじめ作成した収蔵票を撮影してから資料自体を撮影しました。また収蔵票はマクロ撮影で接写しました。古文書の整理では中性紙製の封筒を使用しましたが封筒自体も色分けされていました。封筒には資料に書かれたものをそのまま書き写しました。シャーペンや鉛筆の芯はBを使用しました。収蔵票や収蔵台帳、封筒などにタイトルや備考を書き写す際、わからないところや消えているところがある時は、黒で塗りつぶした丸を書きました。

4日目は午前中は皇国地誌の草稿についての目録作りと写真撮影を、午後からは市内の福島家の古文書の撮影を行いました。今回整理した皇国地誌は齋藤眞指によって編纂された古文書です。古文書などの資料写真をとる際は、余白は多めにバックは茶色以外、ライトを使って影は相殺して撮影しました。付箋などがついていた場合はついたままの状態と外した状態と取りました。虫喰いがある場合は白い紙などで虫喰いの場所がわかるように取りました。

5日目は午前中は古文書講座と古文書整理を、午後は旧宮崎家住宅について、見物に来たお客様にむけて説明するためのワークシート作りと発表を行いました。封筒に資料情報を書き込んでいく仕事をしました。旧宮崎家住宅については素材や特徴、おいてある物の役割などを話しました。

今回、5日間の実習を通じて改めて学芸員の仕事の難しさと重要性を学びました。博物館自体は休館中で来館者はいませんでした。資料の保管や整理などの様々な仕事がありとても忙しかったです。資料によって取り扱い方も変わりますし、どこになにかがあるか、最後まで把握することはできませんでした。普段の生活では体験することのできない貴重な経験を実習を通じて経験することができました。今回の経験は学生生活、更には社会に出てからも活用できると考えています。

最後に休館中の片付けで忙しい中、実習を受け入れて下さった青梅市郷土博物館の皆様には感謝いたします。

山形県立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 岡島 瑞希

私は2025年8月28日から9月3日のうち休みを除いた計6日間、山形県立博物館にて博物館実習をさせていただいた。山形県立博物館は山形城跡の霞城公園内に位置する総合博物館で、開館から54年

を迎えている。代表的な展示はヤマガタカイギウ化石と国宝である「縄文の女神」だ。今回の実習では大まかに座学・資料の取り扱い・模擬解説を行い、博物館と学芸員の役割を再確認し現場の空気に触れる貴重な経験をさせていただいた。

座学は、館長講和と山形県立博物館や分館である教育資料館の概要と展示、そして広報活動や博学連携などについて過去の活動を取り上げつつ進められた。

館長講和では、山形県立博物館の概要や博物館を取り巻く現状について改めて学んだ。課題としては、財政難や人材不足、デジタル化の遅れや来館者の減少などであり、限られた予算と時間の中で経営していることが伺えた。この課題を解決するために特別展やイベント企画、それに伴う広報活動に特に力を入れているように感じた。印象的なものはイベントのポスターやタイトルが、ゲームやアニメのデザインが参考にされているものがあり、若者向けの工夫も感じられた。また、博学連携として高校生向けに「学芸員一日体験」や小学校に赴いて授業を行っている。

教育資料館は館自体が国の重要文化財に指定されており、教育のあゆみを展示している施設である。小学生が見学を訪れているようで寄せ書きが飾られていた。こちらも地域に親しまれている館であることを実感した。

資料の取り扱いの実習は、地学・植物・民俗・動物・歴史・考古の6分野で行われた。

地学部門では貝の化石を番号順に並べる作業を行った。枚数が500枚ほどあり、この作業と並行して他の企画や展示などを進めていくことがいかに大変か体感した。

植物部門では植物資料やその他資料の収集について学んだ。「研究とは価値がないものに価値を見出していくもの」という言葉がとても素敵で、私の中の「研究」というものの解釈が広がった。

民俗部門では絵葉書の資料整理を行った。整理番号と資料番号、資料名を記入して備考欄に年代や状態などを書き込んだ。番号にずれがないように確認しながら行っていたが時間がかかってしまうため、正確かつ効率的に整理できるように工夫しながら行う必要があった。

また、終了した民俗分野の特別展示の片付けをさせていただいた。釘やピンを抜き、資料を包んだ。展示の分野によってはかなりの力仕事になるようで、ほかの実習生と協力して行った。借りた資料が多く、安全に返すまでが仕事であると思った。

動物部門では寄贈していただいた資料の整理を行った。何の資料なのか、いつどこでだれが採取したものなのかを紙に記入した。多くはプランクトンで、貝や虫も採取されていた。次に動物の骨の整理を行った。標本資料は半永久的に集める必要があり、命の重さを感じながら番号を振り分けた。

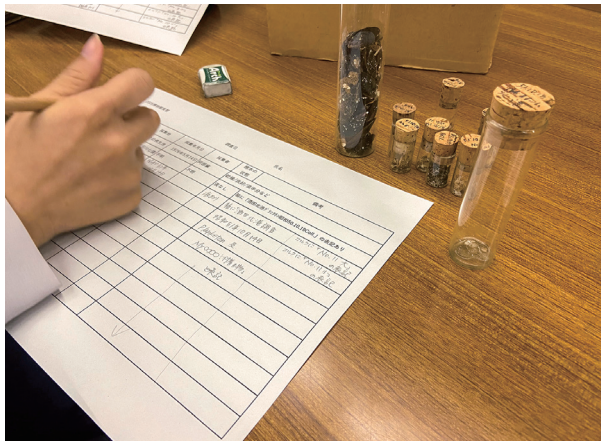
歴史部門では刀と甲冑の撮影の見学を行った。光の当たり具合や輪郭は明瞭であるかどうかなどを確認し、照明やストロボなどを駆使して丁寧に撮影を行っていた。学芸員には撮影の技術も求められ、業務が多岐にわたることを再確認した。

考古部門では縄文土器の移し替えを行った。土器の縮図を描き、綿枕を制作して容器に入れるという流れであった。土器が割れてしまわないように細心の注意を払いながらする作業は緊張感があった。初めて綿枕を作ったが、簡単に作ることができるので覚えておきたいと思う。

実習の最後に博物館内の常設展から資料を選び、5分ほどの模擬解説を行った。私は中高生を対象に「囲炉裏」を解説することにして、担当の学芸員の方に相談に乗っていただきながら原稿を作成した。発表で意識した点は、囲炉裏を見たときに少しかだけ解説を思い出してもらえるような内容で、イラストを用いてはっきりと伝わるように心掛けた。実際はいつも以上に緊張してしまい、原稿とは違う言葉で話していたが要点は押さえられていたので今後は過度な緊張をほぐすようにしたい。準備や発表の内容や手

振り身振りなど評価していただき、反省も含め学びのある模擬解説だった。

実習の中でほかの実習生から刺激を受けたり、講義や見学だけではわからない学芸員の仕事を肌で感じることができたり、とても充実した時間を過ごした。ご多忙のところ実習を受け入れてくださった山形県立博物館の皆様へ深く感謝申し上げます。



動物部門の資料整理の様子



縄文土器を容器に移し替えたもの

〈歴史博物館での実習〉

古代オリエント博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 高山 陽

私は古代オリエント博物館にて、11月27日～12月2日までの5日間（うち1日休み）実習を行った。古代オリエント博物館は、東京都豊島区のサンシャインシティ内に位置し、旧石器時代からイスラーム時代に至る西アジア・エジプトを中心とした考古資料や美術品を幅広く収蔵・展示している。古代オリエント文明に特化した数少ない博物館として、幅広い層から親しまれている。

本実習期間中、当該博物館は展示入れ替えのため休館中であった。そのためバックヤードにおける資料の移動や展示設営といった実務が中心となった。具体的には、高価な展示ケースの清掃・移動や展示レイアウト変更作業などを行なった。これらは貴重な資料が至近距離に存在する状況下での作業であり、常に破損等のリスクを回避するための極めて高い緊張感が求められた。

1日目は、模型資料を保管しておくための専用保存箱の制作を行なった。制作にあたって、緻密で精巧な模型であったため、破損の恐れを第一に考える必要があった。緩衝材を1つ入れることにも資料への影響を考え完成させた。

2日目は、展示替え作業の補助を行なった。主な作業は、他大学の実習生と共同でパネル展示の設営を行うことで、都度職員の方の指導で他の作業を行なった。パネルは全てワイヤーで吊し展示するもの

で、約20点ありそれぞれ大きさが異なる。全てのパネルを来館者目線で見やすい位置かつ同じ大きさのものは同じ高さで固定する必要があった。配置の正確性や視認性の確保が、展示の質を大きく左右することを実践的に学んだ。

3日目は、データベースソフト「FileMaker（ファイルメーカー）」を用いた資料情報の整理作業を行った。博物館における資料管理は、現物の保存のみならず、その情報をデジタル化し体系的に管理することに大きな意義がある。情報の正確な入力、将来的な学術研究や利活用における基盤となることを再認識した。

実習後半の2日間は、展示台の整理および展示ケースのガラスの水拭き作業を行った。ガラスの水拭き作業では特に、資料を配置する直前の空間を清浄に保つという目的のもと、ガラス面の指紋や埃の混入がないよう細心の注意を払った。一見、単純な清掃作業に思われる業務であっても、資料を良好な観覧環境にするための重要な業務だと実体験した。

本実習の多くが展示入れ替えの休館期間と重なったことは、博物館が「展示」を公開するまでに、いかに多くの地道な作業を積み重ねているかを知る上で、非常に貴重な機会となった。1日目の保存箱の制作では、資料を物理的に守るための細やかな配慮を学び、2日目のパネル展示の設営では、来館者の目線を意識したレイアウトの難しさを実感した。また、3日目の資料管理や実習後半の清掃作業を通じて、学芸員の業務が「資料を大切に守ること」と「その情報を正しく伝えること」の両面で成り立っていることを再確認した。すべての作業において、貴重な資料の至近距離で活動したことは、常に大きな緊張感を伴うものであった。しかし、その緊張感こそが資料を扱う者が持つべき責任感であると強く実感した。本実習で得た「資料を丁寧に扱う技術」と「細部まで徹底する姿勢」を、今後の自身の学習や活動にしっかりと活かしていきたい。

最後になりますが、お忙しい中、快く実習をお受けくださった職員の方々に感謝申し上げます。



制作した模型資料を保管しておく箱



展示ケースを清掃している様子

=資料=

博物館実習協力館および受入人数一覧（過去3年間）

【2023年度】

No.	所在	館種	2023年度実習協力館	実習人数
1	埼玉	総合	埼玉県立川の博物館	1
2	埼玉	総合	飯能市立博物館	1
3	埼玉	歴史	毛呂山町歴史民俗資料館	1
4	東京	歴史	古代オリエント博物館	1
5	東京	総合	パルテノン多摩	1
6	東京	歴史	東村山ふるさと歴史館／八国山たいけんの里	1
7	群馬	歴史	高崎市歴史民俗資料館	1

【2024年度】

No.	所在	館種	2024年度実習協力館	実習人数
1	埼玉	総合	飯能市立博物館	3
2	山梨	美術	山梨県立美術館	1

【2025年度】

No.	所在	館種	2025年度実習協力館	実習人数
1	埼玉	総合	入間市博物館 ALIT	1
2	埼玉	総合	飯能市立博物館	6
3	東京	総合	青梅市郷土博物館	1
4	東京	歴史	古代オリエント博物館	1
5	山形	総合	山形県立博物館	1

2025年度 資格課程修了者

[司書課程]

法学部

法学科

松本 大輝

心理学部

心理学科

岡政 楓

田中 拓真

長島 彩華

星場 裕紀

鬼頭 美羽

久家 瑞紀

メディア情報学部

メディア情報学科

荒井 樹里

石井 史哉

大館 翔

金子 雄斗

櫛引 葉那

鴻野 晴奈

小林 晴香

才田 優香

時任 尊規

戸塚 優輝

諸井 梨梨香

ZHANG YIXIN

計 19 名

[学芸員課程]

メディア情報学部

メディア情報学科

石川 卓也

王子田 涉

菊池 来夢

高山 陽

中尾 一馬

吉川 朔哉

岡島 瑞希

宮川 志穂

心理学部

心理学科

田中 拓真

他 1 名

計 10 名

司書課程科目担当教員一覧（2025年度）

《専任》

【教員名】	【担当科目】
青野 正太	図書館情報学／図書館制度・経営論
岩熊 史朗	コミュニケーション論
門脇 夏紀	生涯学習論／図書館サービス概論／情報資源組織論 ／情報資源組織基礎演習／情報資源組織発展演習
寺嶋 秀美	情報処理概論

《非常勤講師》

【教員名】	【担当科目】
池田 貴儀	図書館情報技術論／図書館情報資源概論
佐藤 正恵	図書館総合演習／情報サービス基礎演習／情報サービス発展演習
野村 正弘	デジタル・アーカイブズ論
邊見 統	歴史資料論
松野 南紗恵	情報サービス論／児童サービス論

学芸員課程科目担当教員一覧（2025 年度）

《専任》

【教員名】

伊藤 雅道
海老澤 豊
岡田 安芸子
門脇 夏紀
黒田 基樹
小林 奈穂美
竹内 俊彦
寺嶋 秀美
福島 大我
船場 ひさお
増田 珠子
村上 大輔
村越 一哲

【担当科目】

環境生物学 A / 環境生物学 B / 生命の科学 A / 生命の科学 B
歴史学 B
日本伝統文化論
生涯学習論
歴史学 A
世界遺産論
マルチメディア論
ネットワーク構築論
歴史学 B
音響メディア論
歴史学 A
文化人類学 A / 文化人類学 B
アーカイブズ学

《非常勤講師》

【教員名】

尾崎 泰弘
白石 行広
杉山 正司

丹治 清
野村 正弘
羽田 武朗
邊見 統
水井 涼太
若山 昇

【担当科目】

博物館資料論
データベース設計論
博物館経営論 / 博物館概論 / 博物館資料保存論
/ 博物館情報・メディア論 / 博物館実習 I / 博物館実習 II
博物館展示論
デジタル・アーカイブズ論
博物館教育論
歴史資料論
地球科学
現代科学 A / 現代科学 B

駿河台大学 資格課程 年報 第 26 号

発行日 2026年3月31日

発行 駿河台大学 資格課程

〒357-8555

埼玉県飯能市阿須698番地

TEL 042-972-1110



駿河台大学
SURUGADAI UNIVERSITY